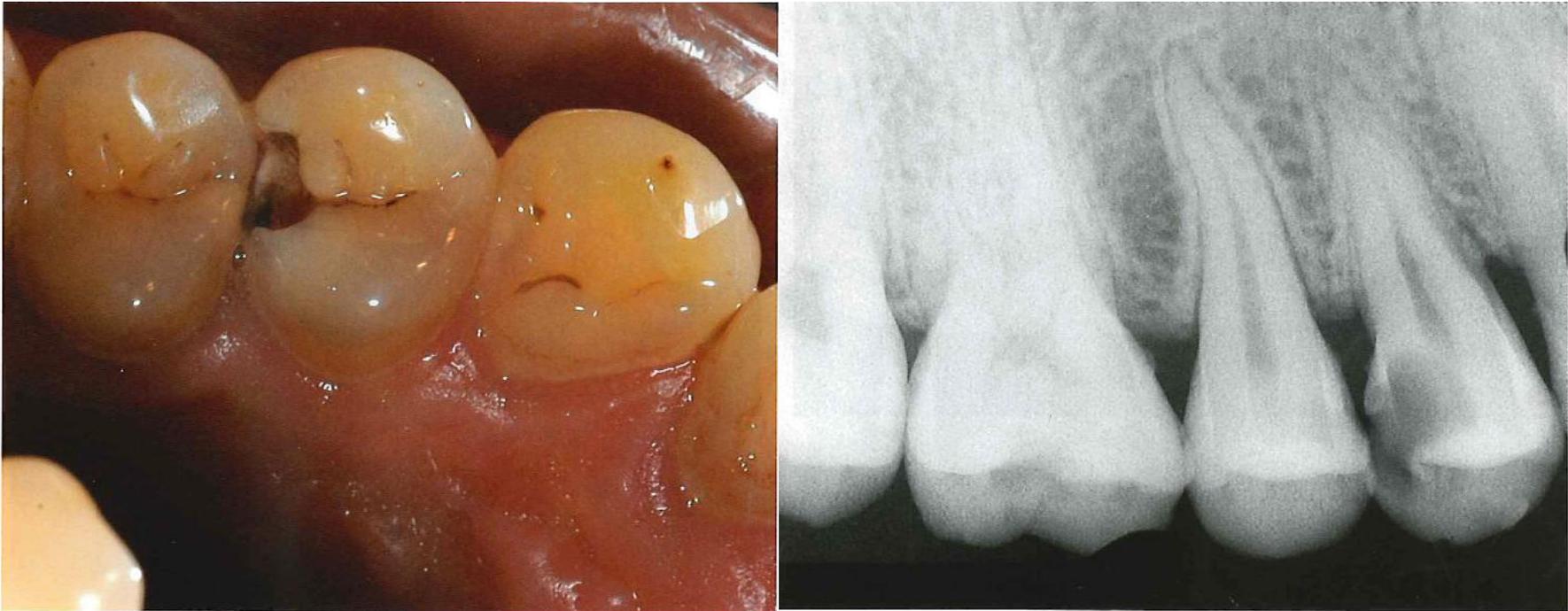


11班発表
齶蝕制御治療学

21歳の男性。

一過性の冷水痛を主訴として来院



○処置方針を決めるために必要な追加検査・情報

- ・問診…現症、現病歴、全身的既往歴の聴取。
- ・インピーダンス測定検査…露髄の有無の診査。(補足1参照)
- ・温度診 歯髄炎との判別
- ・打診:根尖症状の有無

医療面接

年齢：21歳

性別：男性

主訴：冷たいものがしみる

現症：誘発痛(一過性の冷水痛がある、温熱痛はない)
自発痛なし

現病歴：3ヶ月前から一過性の冷水痛がある

全身的既往歴：特記事項なし

検査結果

視診 : 上顎右側第一小臼歯咬合面から遠心隣接面に
変色及び実質欠損。

X線検査: 遠心咬合面から隣接面に歯髄に近接した
深在性の透過像。

○追加検査

インピーダンス測定検査: 30k Ω (補足参照)

温度診: エアーにて一過性の疼痛あり

触診: 露髄点なし

打診: 打診痛なし



補足資料1

露髄の有無を判別する診査

- ・インピーダンス測定検査

硬組織の実質欠損の程度や露髄の判定に有効。
現在カリエスマーター®は製造されておらず
実際の臨床で用いることはほぼない。

600k Ω 以上:健全歯質~エナメル質初期う蝕

250~600k Ω :エナメル質う蝕

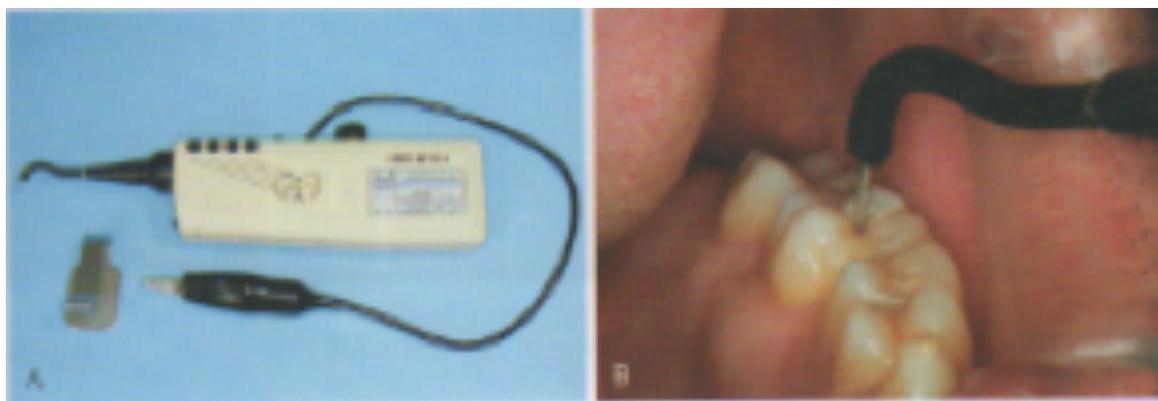
250k Ω 未満:象牙質う蝕

15k Ω 以下:露髄

- ・視診

- ・触診

- ・X線検査



カリエスマーター®

診断

上顎右側第一小臼歯 う蝕症第2度

今回選択した処置方針

- 暫間的間接覆髄法 (IPC)
- 2級コンポジットレジン修復

治療計画

1回目:う窩の開拡～暫間修復



2回目:経過観察(1週間経過後)



3回目:経過観察～最終修復(3ヶ月以上経過後)



4回目:最終研磨

1回目：う窩の開拡～暫間修復

- ①必要に応じて局所麻酔(原則的に無麻酔)
- ②シェードテイキング
- ③う窩の開拡
- ④術野の防湿(ラバーダム防湿)
- ⑤う蝕象牙質の除去
- ⑥窩縁形態の付与
- ⑦窩洞の消毒・乾燥
- ⑧覆髄薬の貼薬
- ⑨暫間修復(仮封)

使用するもの

- ①局所麻酔 局所麻酔器材一式
- ②シェードテイキング シェードガイド
- ③う窩の開拡 基本セット
 ウッドウェッジ(プレウェッジに使用)
 エアタービン
 ダイヤモンドポイント
- ④術野の防湿 ラバーダム器具
- ⑤齶蝕象牙質の除去 齶蝕検知液
 コントラアングルハンドピース
 スチールラウンドバー
 スプーンエキスカベータ
- ⑥窩縁形態付与 ダイヤモンドポイント



モバイルキャビネット



中央ガラス キャビネット

バーケース0~6

Cコーナー



エアタービンハンドピース

コントラアングル
マイクロモーターハンドピース

中央ガラスキャビネット

バーケース 1



ラウンド型



洋なし型





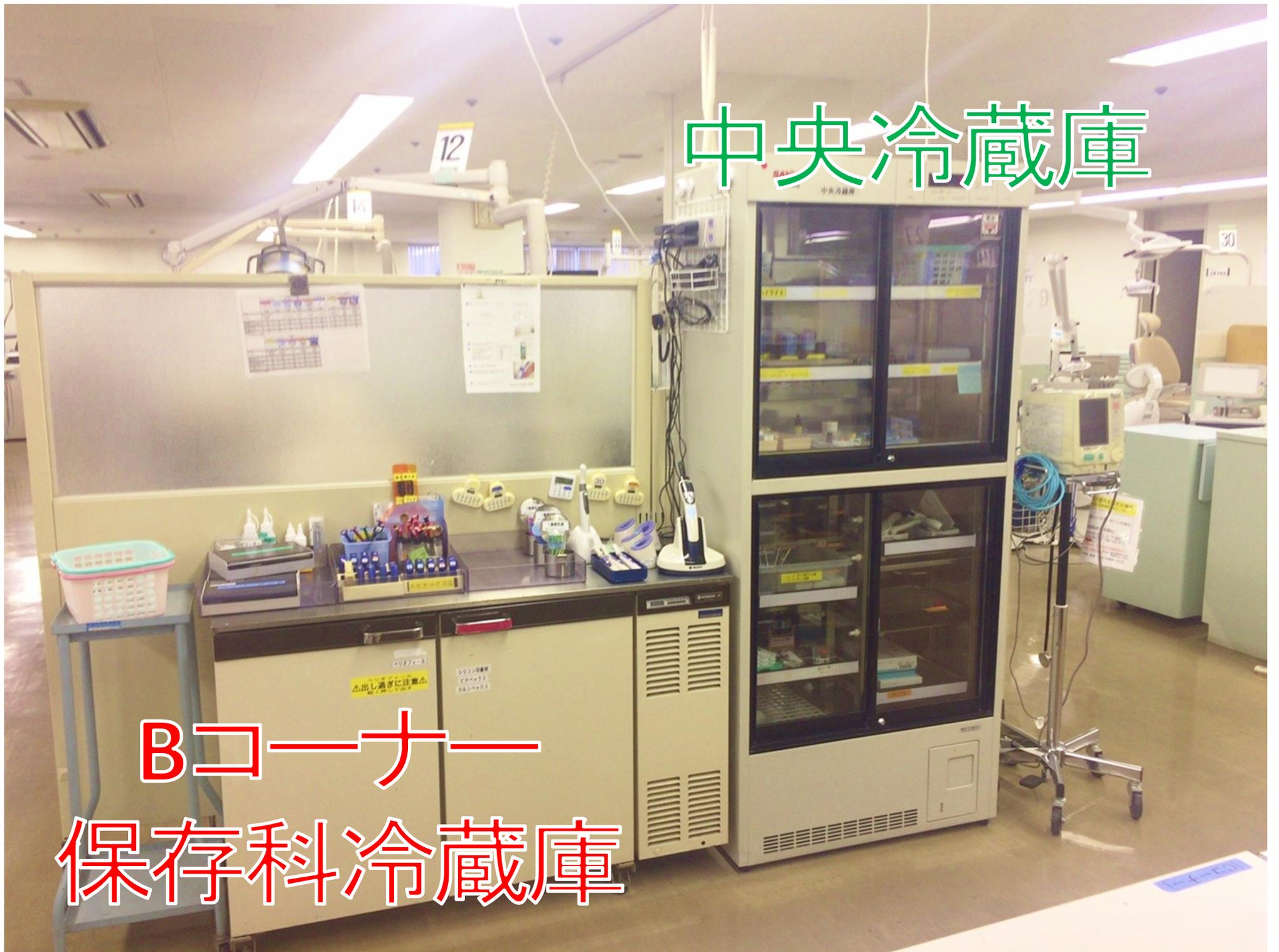
ラバーダムシート
ラバーダムクランプ

ラバーダムフレーム
クランプフォーセツプス

Cコーナー

中央冷蔵庫

Bコーナー
保存科冷蔵庫



齶蝕検知液

Bコーナー保存科冷蔵庫

バーケース 3

スチールラウンドバー



スチールラウンドバー

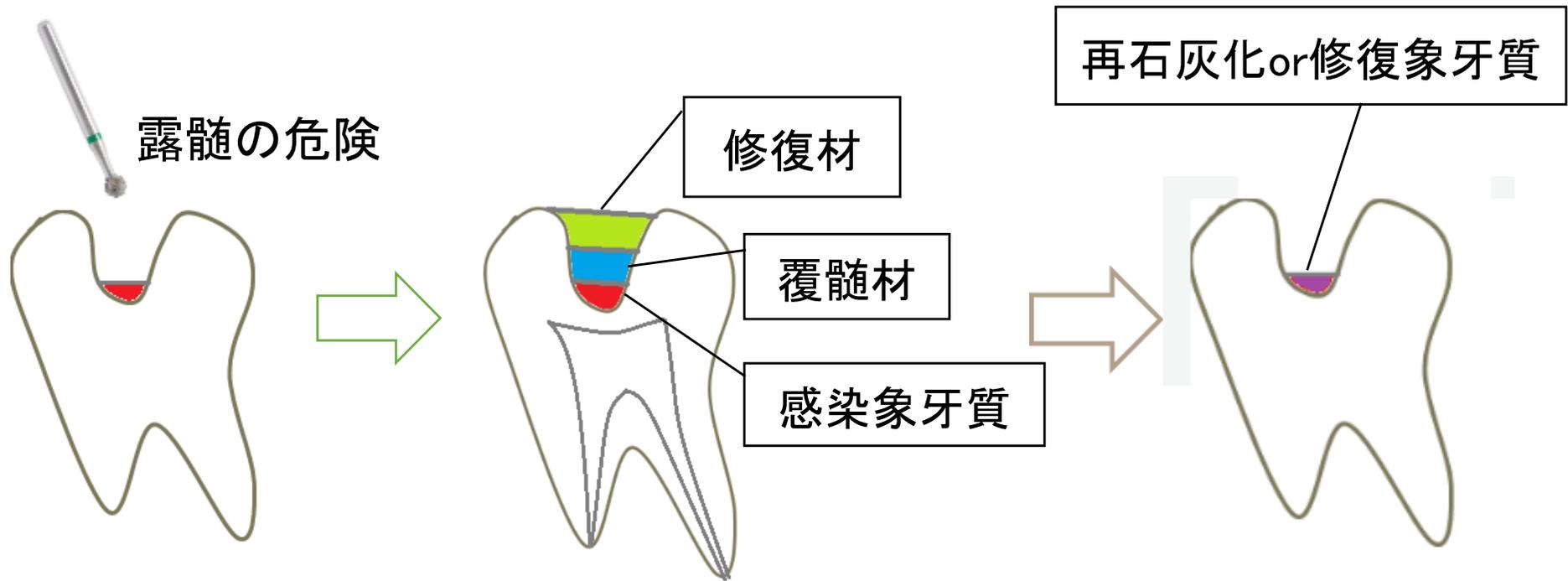


Eコーナー

スプーンエキスカベータ



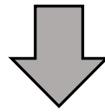
暫間的間接覆髓 (IPC法)





う蝕除去

回転切削器具：露髄の恐れあり



手用切削器具（スプーンエキスカベーター）

+

う蝕検知液

齶蝕象牙質を除去する範囲



患者の痛覚を利用して判断

※無麻酔での処置が推奨されるのはこのため

⑧覆髄薬の貼薬

覆髄材

- 水酸化カルシウム製剤
(ダイカル)
- タンニンフッ化物配合
カルボキシレートセメント
(ハイボンドテンポラリーセメント)
- MTAセメント

充填器

- ボールポイントアプリケーター(ダイカル裏装器)



ダイカル ダイカル裏装器

ハイボンドテンポラリーセメント

Cコーナー

⑨ 暫間CR修復

1) 隔壁の形成

セクショナルマトリックス } コンポジタイト
リング型リテーナー } 3Dシステム®

ホウのプライヤー

透明ストリップス

ウッドウェッジ(マトリックスの固定に使用)

2) 歯面処理

歯面処理剤

3) CR填塞

コンポジットレジン

レジン充填器

照射器 カバー

4) 形態修正、咬合調整

咬合紙

咬合紙ホルダー

コントラアングルハンドピース

エアタービン

ホワイトポイント

超微粒子ダイヤモンドポイント

研磨用ストリップス

ウッドウェッジ

根充セット 根充鉄

15

CR充填器 磨接面充填器

サービカルマトリック
金属ポスト レジンポスト バンドウエッジ

基本セット単品

基本セット単品

レジン充填器

3Dコンポジットシステム

サンプル説明書

Cコーナー



歯面処理剤

中央冷蔵庫

歯面処理剤

1ステップ法
ボンドフォース

2ステップ法

セルフエッチングプライマー＋ボンディング材
エッチング材＋ウェットボンディングシステム
メガボンド、フルオロボンドⅡ

セレクトィブエッチング

エナメル質への接着性をより高めるためリン酸エッチング材
(K-エッチャントGel)にてエナメル質のみを選択的にエッチング
すること。通常の歯面処理と組み合わせて行われる。



コンポジットレジン

ストリップス

照射器
照射器カバー

Bコーナー保存科冷蔵庫

モバイルキャビネット



咬合紙ホルダー

歯研磨材

咬合紙ホルダー コンタクトゲージ

21mm リーマー・ファイル

根治セット

CAD/CAM ダイヤモンドポイント

25mm リーマー・ファイル

根充ケース 根管充填シーラー

インレークラウンリムーバー

28mm リーマー・ファイル

ラバーダムシート ラーダムクランプ

エバンス 金冠バサミ 曲

ラバーダムフレーム クランプフォーセップス

シートガイド コントラスター

31mm リーマー・ファイル

GPメ+Dファイニング

リソグラフィック

エンドリーマー (21mm 25mm)

シンボニー

インレークラウンセット シェルテック

ファイル用サンプル

Cコーナー

バーケース 3



ホワイトポイント

バーケース 2



ホワイトポイント

スーパーファイン
ダイヤモンドポイント

咬合調整

咬合面早期接触部位を調整する。

※場合によって咬合は甘くする。

形態修正に用いるバー、ポイント

- ・ホワイトポイント 超微細ダイヤモンドポイント

どちらも目が細かく、フィラーをすり潰すように形成する。

- ・カーバイドバー

異なる大きさを持ったフィラーをマトリックスごとカットするように形成するため、面で形成することができる。

2回目：経過観察(1週間経過後)

①問診

自発痛、冷水痛、咬合痛、根尖部の圧痛がないことを確認する。

②検査

- ・歯髄電気診
- ・温度診
- ・打診

③暫間修復したCRの研磨

急性症状がある場合は**歯内療法**に移行する。

3 回目：経過観察～最終修復

①問診・検査

◆歯髓の生死・症状の有無

- 自発痛、冷水痛、咬合痛、根尖部に圧痛がない
- 電気歯髓検査(＋)
- エックス線写真で根尖部に透過像が認められない

◆修復象牙質の確認

- エックス線写真で窩洞底と歯髓腔の間に壁が認められる
- 暫間修復材と覆髓剤をスプーンエキスカベータなどで除去した後、探針で硬化が確認できる

結果によって以下の3パターンに分かれる

A. 効果が確認できた
⇒最終修復へ

B. 露出した感染象牙質が乾燥・硬化していない
⇒感染象牙質の除去
→齶窩の水洗と乾燥
→覆髄剤の貼付
→暫間修復(仮封)
→経過観察(約3ヵ月)
4回繰り返して効果がなければ歯内療法に移行する

C. 急性症状がみられる
⇒歯内療法に移行する

最終修復

①軟化象牙質の除去

②べベルの付与



通法に従ってコンポジットレジン修復を行う

4回目:CR最終研磨

①最終研磨

研磨用器具

- ・CR研磨用シリコーンポイント(コンポマスター)
- ・ゴム製研磨剤(シリコーンミディ、スーパースナップ)
- ・研磨用ストリップス



シリコーンミディ (バーケース6)